

〈本ページのねらい〉

調査対象地域における歴史的、文化的な地域資源の存在の有無や、その保全・継承状況を調査する。

ここで「地域資源」とは、地域の水環境の歴史や文化的特性を表す要素であり、地域住民にとって資源としての価値を有する「もの」や「こと」などをいう。

〈ポイント〉

過去に遡ってみたときに、治水や利水といった日常生活の上での係わりが深いほど、歴史的な建造物や文芸作品、地域行事や習慣など、有形無形を問わず、地域の水環境を特徴づけるものが多く存在する。

有形・無形資源（例）

■ 唱歌「隅田川」

現在も昔と同様に地域住民や観光客に愛されており、歌詞にある船での観光や桜の景勝地としても有名なである。

■ 信玄堤(しんげんてい)

戦国時代に武田信玄によって考案された堤防。急流河川で採用された、あらかじめすき間をいれた逆八の字型に配置した不連続な堤防。治水の歴史を現代に伝える貴重な構造物である。

5. 地域とのつながり

● 歴史と文化●

川にまつわる昔の話を聞いたことがありますか？



歴史的、文化的な事物の有無、その保全、継承の状況を調査します。これらは、地域の水環境の歴史や文化的な特色を表すものであり、そこに住む人々にとって大切な“もの”や“こと”をいいます。川と地域との係わりについて調べましょう。

〔有形の資源〕

史跡、歌碑・記念碑、記念館、文学などです。実物を見たり地域の人たちにたずねてみたりして、調べましょう。

- ①治水や利水に係わるもの：旧河道、道路、橋、川岸、渡し場、昔の治水構造物（霞堤、水害防備林など）、取水・分水堰、堀、わんど
- ②動植物に係わるもの：河畔林、並木、名木、稀少・貴重種の生き物や植物
- ③その他：文化財、神社、石仏、水神様、川に係わる歌や詩や俳句、文芸作品の記念碑など

〔無形の資源〕

景勝地、川や川周辺で長年行われているお祭りやとうろう流しなどの行事や習慣、伝統的な川や水に関する仕事、川を歌った詩歌や文芸作品、伝説・民話などです。地域の人たちにたずねてみたりして、調べましょう。

段階	内容
3	たくさん聞いたことがある
2	聞いたことがある
1	聞いたことがない



24

〈発問〉

● 調査対象の河川についての有形・無形の資源から、何が分かったでしょうか。

(例) ⇒治水の歴史や水神様から、昔は河川の氾濫等による被害を多く受けていたが、

現在は治水事業によって水害が少なくなったことが分かった。

⇒川についての歌から、今も昔も変わらず、住民が川を愛していることが分かった。

⇒灯籠流しや祭りから、川を神聖なものと考えていることが分かった。

〈本ページのねらい〉

対象とする水域において、水辺に近づいて、直接水に触れられるか、触れることができる箇所が多いかを調査する。

〈ポイント〉

水辺に近づけるか否かによって、住民の川への親密度、愛着度が違ってくる。

また、水際まで行くことができても、川に入れない、水に触れられないところでは、親しみが半減する。

〈親水性に関連する構造物〉

1. 親水施設

河川において地域住民が水に親しむ憩いの場として設置された施設（階段護岸、緑化護岸、休憩施設、水遊び場、遊歩道等）のことをいう。

2. 川や生き物を紹介するパネルや看板

自分たちの身近な場所に、どのような生き物が暮らしているのかを知ることによって、河川のことを知り、河川環境を守っていく必要性を認識する機会となる。

5. 地域とのつながり

● 水辺への近づきやすさ ●

水辺には近づきやすいですか？



水辺に近づくことができるかどうかによって、人々の川への親しみが違ってきます。また、水際まで行くことができても、川に入れない、水にふれられないところでは、親しみが少なくなります。水辺に近づいて、直接、水にふれられるか、ふれることができる箇所が多いかを調査します。

現地で実際に水辺に近づき、簡単に水にふれられるかどうか、ふれられる箇所が多いかどうかを調べましょう。また、川や生きものを紹介するようなパネルや看板があるかどうかなども調べましょう。

段階	内容
3	近づいて、水にふれられる
2	近づけるが、水にふれられない
1	水辺を見ることができない



25

〈発問〉

- 調査対象の川には、どのような親水施設がありましたか。

（例）⇒遊歩道が整備されており、地域住民が散歩などに利用していた。

- また、親水施設が無い場合、どのような施設があればよいと思いますか。

（例）⇒川辺は狭く、公園や遊歩道を作るのは難しいので、川の様子や歴史、川にすむ生き物についてのパネル等の展示物があれば、川に親しみがもてるかもしれない。

5. 地域とのつながり

● 日常的な利用 ●

多くの人々が利用していますか？



地域の人たちが実際に川（水）を利用して^{りよう}いるか、水辺を訪^{みずべ おとず}れているか、またどのように利用しているかを調査します。

散策^{さんさく}、釣り^{つり}、レジャー^{れじゃー}、スポーツ^{すぽーつ}など、どこ（水辺^{みづべ}や水上^{みづうへ}など）で、どのように利用されているかを調べてみましょう。

段階	内容
3	多くの利用がある
2	利用はあるが少ない
1	利用されていない



26

〈本ページのねらい〉

地域の人たちが実際に川（水）を利用して^{りよう}いるか、水辺を訪^{みずべ}れているかといった利用実態を調査する。

※ 川沿いの道を生活道路として利用しているものは含むが、車の通過利用は対象外とする。

〈ポイント〉

調査条件（天候や季節、休日かどうかなど）によって、利用状況が異なることがあるので、事前に、散策・釣り・レジャー・スポーツなど水辺・水上での利用場所、およびその利用実態について調査し、情報入手、整理しておく。

〈川の利用マナー〉

河川の利用は、地域住民が河川に親しみを持ったり、住民同士が交流する良い機会となっている。

しかし、昨今、利用マナーを守らないことによるトラブルも多い。

例えば、河川敷きでバーベキューをする際に、ゴミを持ち帰らなかったり、深夜まで花火をしたり大騒ぎすることにより、近隣住民は迷惑を受ける。

近隣住民だけではなく、ごみのポイ捨てなどは生き物にも迷惑をかけるよ！



〈発問〉

● みなさんやみなさんの家族は、川を日常的に使っていますか？

使っている場合は、どんなとき、どのような用途に使っていますか？

（例）⇒河川敷を使って休日に野球の練習をしている。

⇒毎日、犬の散歩をしている。夏は水辺の生き物を探しに行く。

● 使っていない場合は、どうしてですか？

（例）⇒川原が狭く、水も嫌な臭いがするので、川にはめったに近づかない。

〈本ページのねらい〉

河川だけではなく、対象とする区域が用水のための水道や農業のための取水や観光、経済活動、舟運 など、地元に残らず広域的に利用されているかどうか調査する。

〈ポイント〉

調査条件（天候や季節、休日かどうかなど）によって利用状況が異なることがあるので、事前に、観光を目的として流域外から訪れる人が多い場所であるか、漁業が行われているか、上水道や工業用水道の取水が行われているかなどを調査・整理しておく。

〈産業活動の例〉

■ 取水して利用

- ・ 農業用水取水
- ・ 工業用水取水
- ・ 水道用水取水

■ 流水を利用

- ・ 漁業
(アユ・ヤマメなど)
- ・ 農業 (ワサビなど)
- ・ 舟運 (現在は観光資源として使われている場合もある)
- ・ 溪流下り など

5. 地域とのつながり

● 産業活動●

川の水を利用した産業活動はありますか？



調査する川の水が、飲み水としての利用、農業としての利用、漁業、工業、舟運、観光など、地元に限らず利用されているかどうかを調査します。

わたしたちの飲んでいる水がどこからきているのか、家庭で使用した水がどこに流れているのか調べましょう。また、調査する川の水を利用してどのような産業活動が行われているのか、川を見たり（観光客が川に来ているか、漁業をしているかなど）、川岸に立ててある標識を見たりして調査しましょう。

段階	内容
3	重要な目的によく利用されている (水道、農業、漁業など)
2	少し利用されている
1	利用されていない



27

〈発問〉 ● 川が産業活動に使われることのメリットとデメリットを考えてみよう。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ● 産業活動による経済的効果がある ● 企業の環境教育の材料として活用できるなど 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光客によりごみが投棄されるなど、美観低下につながることもある (観光産業への影響) ● 工場排水などにより水質悪化や生態系への影響が生じることもあるなど

〈本ページのねらい〉

調査対象水域において、環境保全活動や環境学習・自然観察などを行っている住民団体があるか、地元の学校が総合学習などで学習対象にしているかなど、川を対象とする地域活動状況を調査する。

5. 地域とのつながり

● 環境活動●

川を利用した環境活動は行なわれていますか？



対象とする水域で、環境を守るための活動や環境学習などを行っている住民団体があるでしょうか。また、学校が総合学習などで川を利用しているでしょうか。このような川を対象にした様々な活動の状況を調べましょう。

(1) 調査前に行なうこと

市役所の情報コーナーや市民活動サポートセンターなどで、環境保全や自然観察会などのイベントに関するチラシや資料などを調べましょう。環境活動をしている団体や活動の状況を知ることができます。

さらに、インターネットなどで個別の団体を調べることで、活動の内容が詳しくわかるかもしれません。環境団体の活動場所（川の場所など）について調べて、地図の上に整理すると、どこでどのような活動が行われているかを知ることができます。

(2) 現地で行なうこと

実際に行っている、環境保全活動、自然観察会などの活動を調査します。直接、その活動を見たりできることが少ない場合には、川岸に設置されている案内看板、ビオトープの看板などから活動の状況を調べましょう。

活動している団体の数や活動の状況から次のように判断します。

段階	内容
3	多くの人がさかんに環境に係わる活動をしている
2	時々あるいは一時的に活動をしている
1	全く活動がない

〈ポイント〉

調査時に、環境保全活動や自然観察会などの活動を確認できることは少ないので、事前に、環境保全活動、環境学習、自然観察など実施している自治体、地元学校、環境団体の有無、活動状況、連携などについて、調査・整理しておく。

〈環境 NGO とは〉

NGO は、非政府機関 (Non Governmental Organization) の略称で、直訳すると「非政府組織」である。

NGO は、国連と政府以外の民間団体との協力関係について定めた国連憲章第 71 条において使われており、国際援助協力に従事する民間の国内団体、国際団体などを指す。

その中で、環境保護活動を行っている団体を環境 NGO と呼ぶ。

〈発問〉

● 環境活動には、どのようなものがあるでしょうか。

- (例) ⇒草刈や掃除などの活動
⇒生き物の調査と結果の報告
⇒ビオトープ造りと維持活動
⇒啓発の看板や張り紙の作成、管理
⇒環境教育（指導活動、普及活動、啓発情報の公表等） など

〈本章のねらい〉

身近な川を実際に調べに行く時には、しっかりと持ち物の準備や事前調査を行う必要がある。

ここでは、具体的にどのように準備や事前調査を行ったらよいかを示す。

〈本ページのねらい〉

川のすがたを、よりよく把握し、学習内容を深めるためには、事前調査が重要である。

ここでは、実際に各項目について調べる際の情報収集源を示す。

事前調査情報収集源

ア 川にまつわる昔の話

- ・国土交通省地方整備局 HP
- ・河川紹介資料
- ・図書館、資料館、博物館
- ・地元自治体
- ・観光協会
- ・市民団体、個人、学校
- ・郷土史、民族研究家
- ・地元出版物、広報誌
- ・インターネット

イ 多くのひとは利用しているか

- ・国土交通省地方整備局 HP
- ・河川紹介資料
- ・国土交通省 HP「河川環境データベース」
- ・地元自治体
- ・農林、水産組合
- ・市民団体、個人、学校
- ・地元出版物、広報誌
- ・インターネット

ウ 漁業や水道水の取り入れなどの産業活動

- ・国土交通省地方整備局 HP
- ・河川紹介資料
- ・水道事業者や協会 HP
- ・地元自治体
- ・観光協会
- ・地元出版物、広報誌
- ・インターネット

エ 観察や清掃などの環境活動が行われているか

- ・環境省 HP「地球環境パートナーシッププラザ・環境らしんばん」
- ・(独)環境再生保全機構「環境 NGO 総覧」
- ・自治体の環境白書
- ・河川環境管理財団 HP
- ・市民団体、個人、学校
- ・インターネット

2. 身近な川を調べに行こう！

(1) 調査をはじめる前に

① 事前に調べておこう



● 調査の区間は、どこからどこまで？

インターネットなどを使って地図上で確認してみよう！

出典：(C)Yahoo Japan

● 調査区間についての様々な情報を集めよう

現状だけでなく、昔の状況についてもできる範囲で調べることはとても大切です。

ア 川にまつわる昔の話(下図左)

イ 多くの人は利用しているかどうか

ウ 漁業や水道水の取り入れなどの産業活動(下図右)

エ 観察や清掃などの環境活動が行なわれているかどうか



また、調査計画の立案や見直しにあたって、できる限りの情報を集めた上で検討するとよいでしょう。安全についても注意しましょう。